



あまのり せうり



あまのり せうり



あまのり せうり



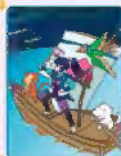
あまのり せうり



あまのり せうり



みゆみたちは えほんの せかいに すいにまれちゃった!



あまのり せうり

33



あまのり せうり

26



あまのり せうり

18



あまのり せうり

11

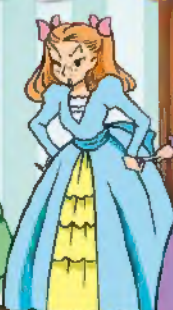


あまのり せうり

3

あまのり せうり

シンデレラ



わかし、シンデレラとい
う、こころの やさしい
おんなの こが
いました。
シンデレラの
あたらしい おかあさんと
ふたりの おねえさんは、
とても いじわるなのです。
「そうじも せんたくも
せんぶ おまえ
ひとりで やるんだよ。」
シンデレラは
いつしょうけんめい
はたらきました。



まほうつかいが
つえを ふるふ、
シンデレラの ふくは
うつくし
ドレスに、かほちゃは
ばしやに、ねずみは
うまに なったのです。
「十二じまでこ
かえらないと、もとの
すがたに もどつて
しまうからね。」





シンデレラが

おしろの ひるまへ

はいって いくわ、

みんな びゅり。

「なんて かわいそう」

かたてしゅい。」

おねえさんたちは

シンデレラに

きが つきません。

おうじさまは、

ひとめで シンデレラを

すきに なりました。

「ほへ」

おどろて くださる。」

「はい、おうじさま。」

おうじさまと

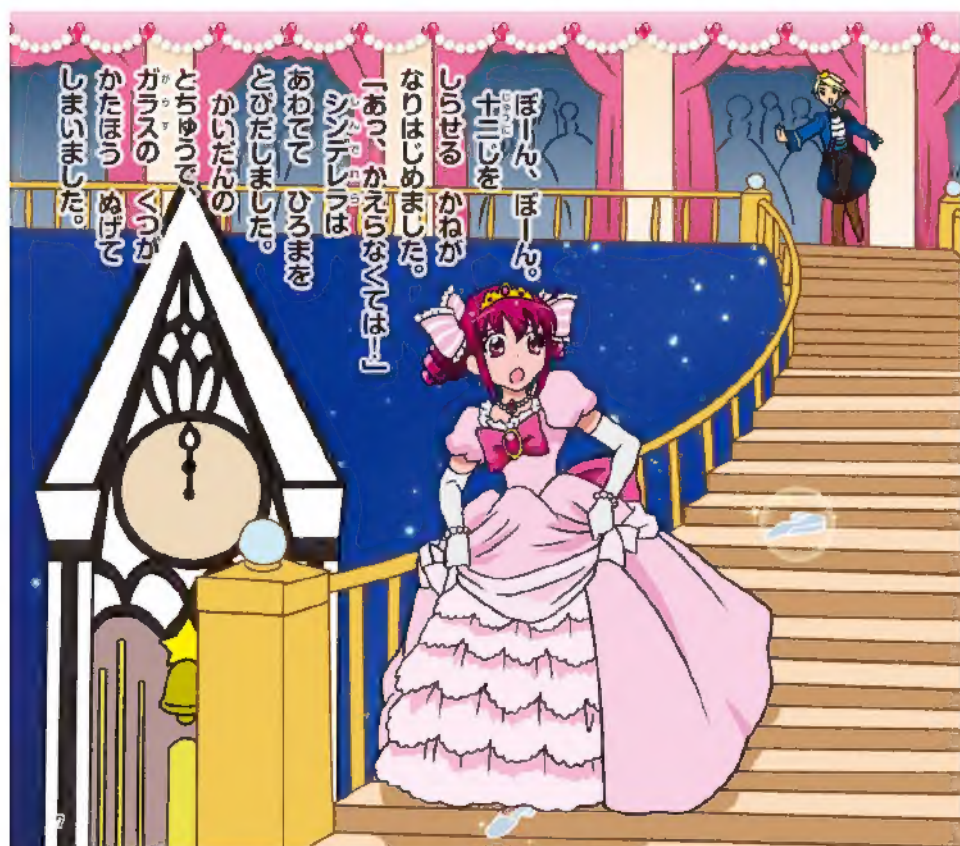
シンデレラは

たのしくて、ときの

たつのも わすれ、

むちゅつで

おどりつづけました。



ほーん、ほーん、
十三じを

しらせる かねが

なりはしめました。

「あっ、かえらなくてはー」

シンデレラは

あわてて ひろまを

とびだしました。

かいだんの

とちゅうで

ガラスの くつが

かたほう めげて

しまいました。

まほうが とけると、シンデレラは
はいだらけの ふくに、ばじゃは かぼちゃに、
うまは「ねずみに もとどて しまいました。」

「この ガラスの くつが
ぴったりの ひとを
さがして くれ。」

おうじさまの
めいれいで、けらいたちが
くにしゅうの いえを
たずねました。

シンデレラの

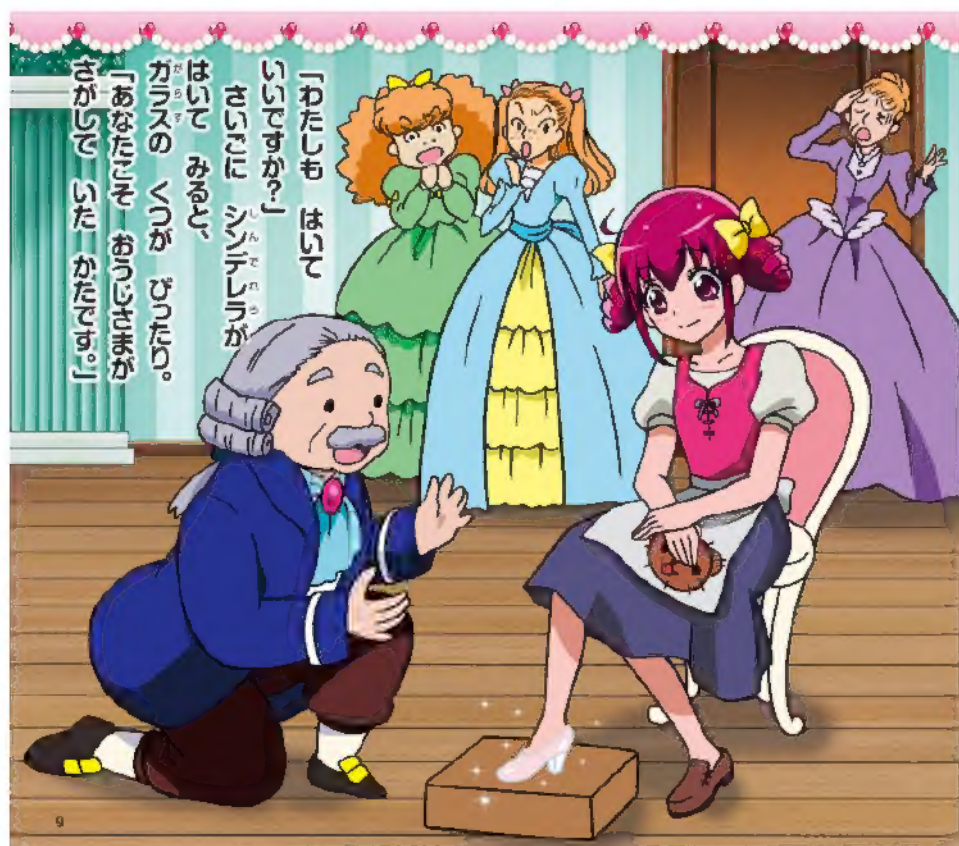
いえにも

やって きました。

でも、おねえさんたちは

あしが おおきくて、

くつが はいりません。



シンデレラは
おしろへ
むかえられて、
いつまでもしあわせに
くらしました。

(おわり)

いっすんぼうし



「いっすんぼうし」と
なまえを つけて
かわいくなりました。

おまの こい

おまの こい。

ふたりは

うまれたのです。

おまの こが

とても ちいさな

すると、ほんとに

できますわい。

いっすんが

いっすんが

「ごんごに

おねがいをしました。

ふたりは かみさまに

ふんぶが いました。

いっすんが いらない

あるとごんごに

むかし、

ところが、

いつすんぼうしは

なんねん たつても

ちいさい ままです。

それでも、げんきいつぱいで

かしこい おとこの こに

そだちました。

ある ひ、いつすんぼうしは

おとうさんと おかあさんに

いきました。

「みやこへ いって、りつはな

さむらいに なりたいと

おもいます。ほくに おわんと

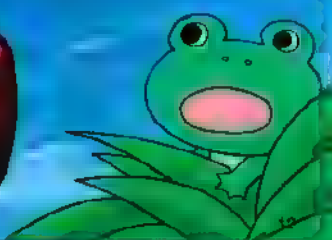
はしと はりを くださう。」

そして、かたなの かわりに

はりを こしに さして、

おわんの ふねを はじて、こうで

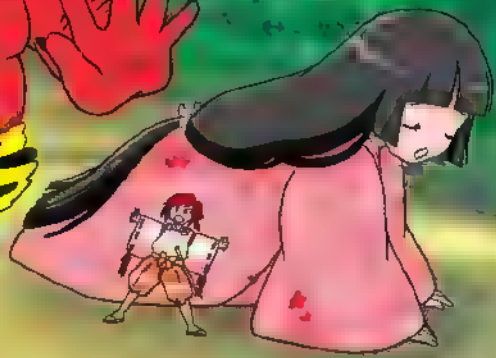
かわを くだつて いきました。





「ううん、めいじは
 ついた いっすんほつしほ
 おおきな おやしきに
 はいって いきました。
 「たのもう、たのもう！」
 げんかんで さげふと
 でて きた けらいは
 ちいさな おやこの こを
 みて、ひんぐ。
 「どうか この うえで
 はたらかせて ください。」
 げんきよく あいさつを
 したので、このさまは
 いっすんほつしを
 とでも きに いりました。
 「よし、けらいに
 して、やろつ。」

ある ひ、おひめさまは、
いらすんほうしをつれて、
おてらへ おまいりに
でかけました。
すると、とちゅうで
おそろしい おにが
おひめさまを さらおつと
おそつて きました。
「きゃあ、たすけてー!!」





10

THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS

のみこまれても

おなかのなかを

1888年5月

「**大田南畝**」





おには

いっすんぼうしを
はきだして、

にげて しまいました。

「ありがとっ、

いっすんぼうし。」

おひめさまは、

おにが みちに

おとして いった

こづちを みつけました。

「これは なんでも

のぞみが かなう、

うちでのこづちだわ。」

「それでは、ぼくが

おおきく なるように

してください。」

おひめさまは、

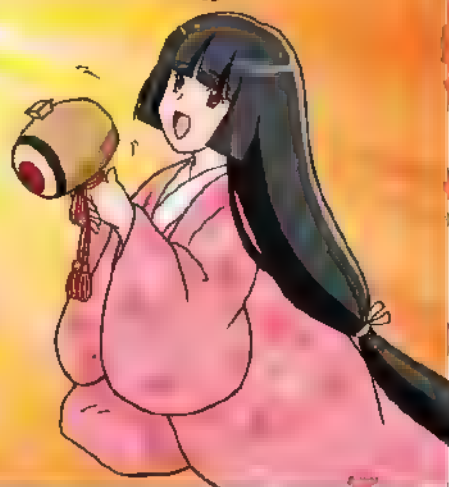
こづちを

しゃんしゃんと

ふりました。

「いっすんぼうしよ、
おおきく なあれ、
おおきく なあれ。」
すると、みるみる
うちに、いっすんぼうしの
せが のびて
りっぱな わかもの
になりました。
めでたし めでたし。

(おわり)



そんぷくう



むかしむかし、

やまの てつべんに、

いしの たまごが

のつて いました。

ある ひ、いしの

たまごが ばかっと

われて、いしさが

うまれました。

げんきな

いしさは、

やまの さるたちの

おうさまに なり、

たのしく くらして

いました。

「そうだ。もつと

つよく なる ために、

せんにんに

あいに くらして」

せんにもの でしに なった
 いはるは、「そとへう」と
 なまえを もらいました。
 たくさん しゅきょうを して、
 いろいろな しゅつを おほえました。
 そして、きんごうとてい
 のして、やまへ かえりました。





そんなくうは、
うでだめしに、じゅつを
つかって ようかいを
たいじします。
そして、にようほうと
いう、のびたり
ちぢんだり する ふきで
おおあばれ。
「へへっ、これで
えらく なったぞ。」

とくに なつて

あはれる

そんごくうの まえに、

ある ひ、おしゃかさまが

あらわれました。

「みんなを こまらせた

ばつですよ。」

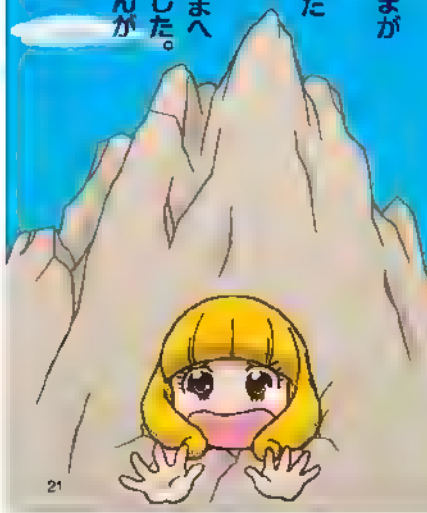
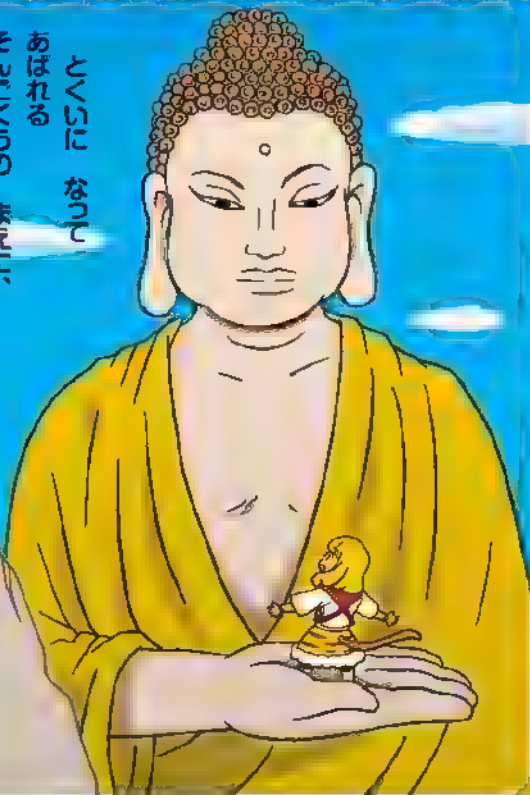
おしゃかさまは

そんごくうを、いわやまへ

とじこめて しまいました。

そして、五ひやくねんが

すぎて いきました。



あるひ、

さんぞうほうしが
とおりかかりました。

さんごくうは

なきながら たのみます。

「おねがいです。

ここから

だして ください。

だして くれたら、

でしに なります。」

さんぞうほうしが いのゑと、

いわやまが くれました。

しかし、さんごくうは

にげだそうと します。

その とき、

さんごくうの

あたまに、

きんの わが

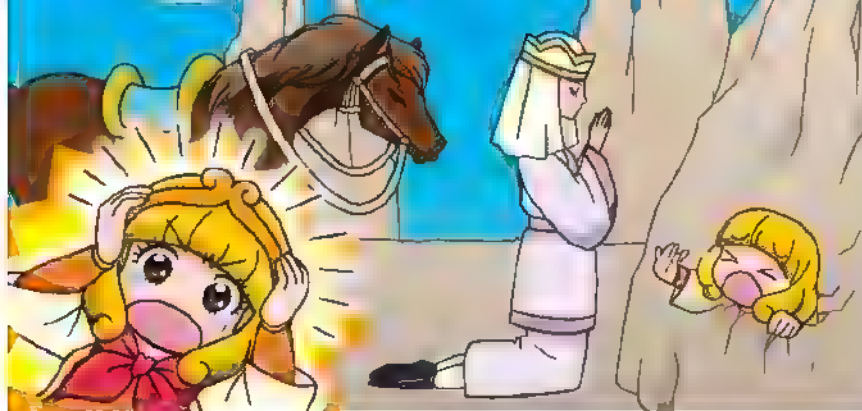
つけられて、しめつけました。

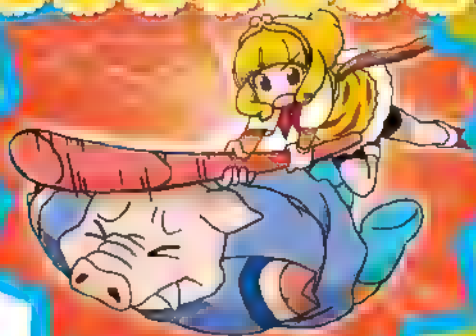
「いたい。もう 下げません」

さんぞうほうしが

いのゑのを やめると、

いたみが とれました。



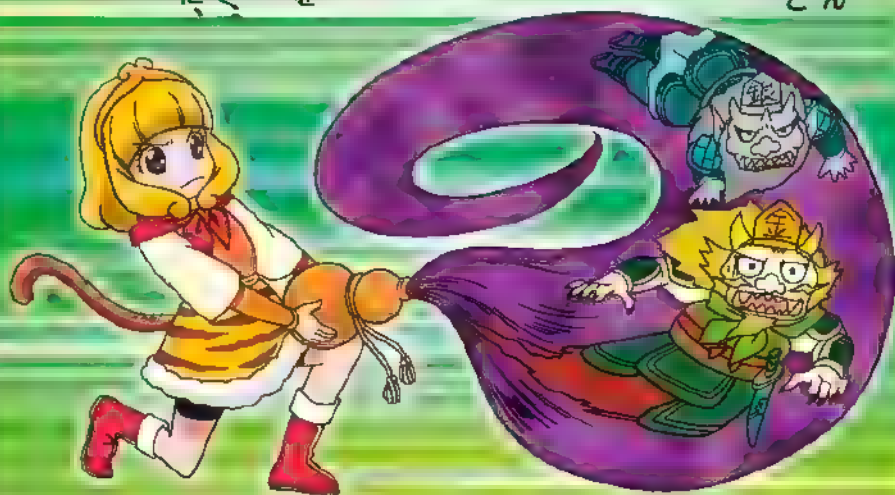


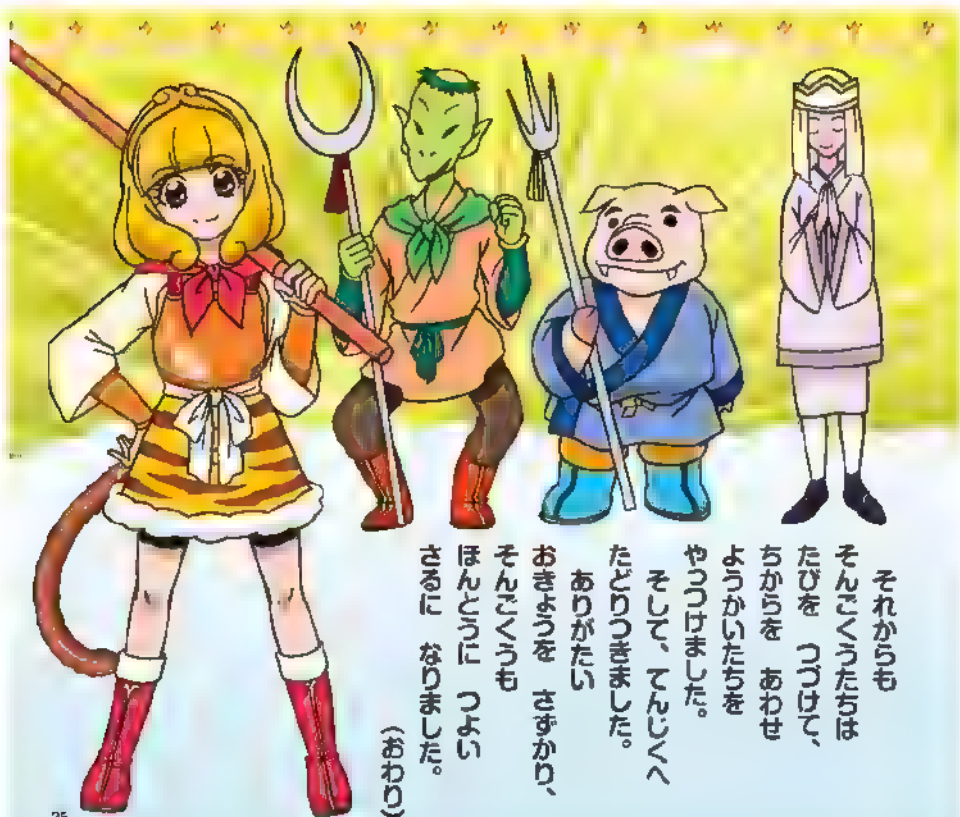
こんどは、
 かんで あばれる
 さじょうと いう
 かっぱを
 たいじしました。
 おとともも、
 さんぞうほうじの
 おともにくわりました。



そんごうが、
 さんぞうほうじと
 たびをして、いと、
 むらで あばれる
 ちよはつかいと いう
 ふたを みつけ、みごと
 たいじしました。
 ちよはつかいは、
 おともにくわりました。

ある ひ、とつぜん
きんかく、ぎんかくと
いう ようかいが
おそつて きました
そんごくうは、
へんじを すると
なんでも
すいこんで しまふ
ひょうたんを、
ぎんかくから
うばいます。
「おい！ きんかく、
ぎんかく。」
「なんだ！」
おもわず へんじを
して しまった、
きんかくと ぎんかく、
あつと いう まに、
ひょうたんに
すいこまれて
しまいました。





それからも

そんごくうたちは

たびを つつけて、

ちからを あわせ

ようかいたちを

やっつけました。

そして、てんじへへ

たどりつきました。

ありがたい

おきようを さすかり、

そんごくうも

ほんとうに つよい

さるに なりました。

(おわり)

うらしまたろう



むかし、

ある むらに、

うらしまたろうと

いう わかものが

いました。

ある ひ、はまへへ

いくと、こどもたちが

かめを

いじめて います。

「かわいそうに。

はなして

やりなさい。」

うらしまたろうは

かめを たすけて、

うみへ にかして

あげました。



しばらくして、うらしまたろうが
つりをしていると、うみの
なかから かめが あらわれました。
「あのときは、たすけて
くれて、ありがとうございます。
おれいに りゅうぐうじょうへ
ごあんないします。」
うらしまたろうは、よろこんで
かめの、せなかに、またがりました。

くらげの
 せうめい
 くらげの
 せうめい
 くらげの
 せうめい



うつくしい おとひめさまが
むかえて くれました。

「どうぞ ゆっくり

して いらっ ください。」

さかなたちが ひらひらと

おどって います。

「なんて

しあわせなんだろう。」

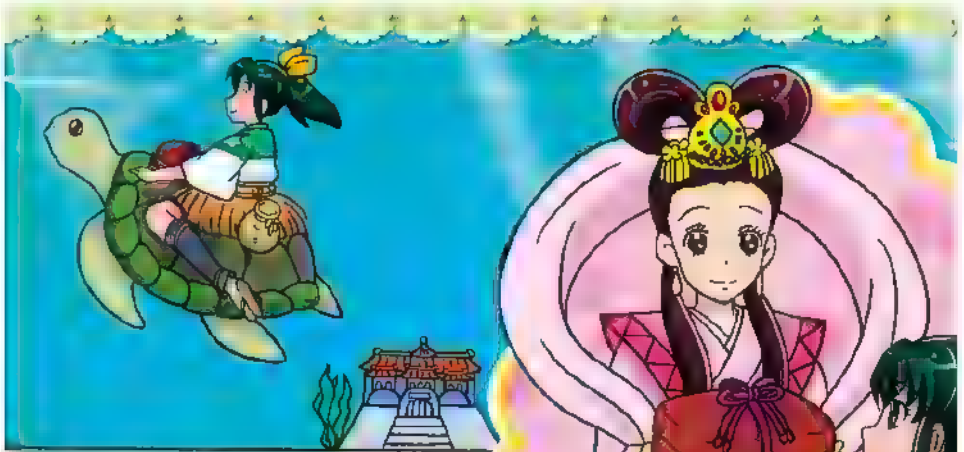
うらしまたろうは

ゆめのような

まいにちを

すごしました。





あーひ、
ううしまたううは、
ふるさとの
むらをおもいだしました。
「おとひめさま、
わたしは そろそろ
いえに かえる
ことに します。」
「では、おみやげに
この たまてばこを
あげましょう。
でも、けっして
あけては いけませんよ。」



うらしまたろの

かめに のつて

はまべへ かえると

むらの ようすが すっかり

かわって いました。

しらない

ひとばかりです。

「うらしまたろの

いえを しりませんか？」

「はて？ それは」

ひやくねんも まえに

うみへ いった まま

かえって こなかった

ひとですよ。」

「なんだって！」



びっくりした
うらしまたろうは、
つい、たまたまはこの ふたを
あけて しまいました。
すると、なかから
しろい けむりが
もくもくもくもくもくもく。
あつと いう まに
まっしろい ひげの かおに
なつて しまいました。

(おわり)



ももたろう



むかし、

あるところに

おじいさんと

おばあさんが いました。

ある ひ、

おじいさんは

やまへ しほかりに、

おばあさんは かわへ

せんたくに いきました。

すると、かわから

どんぶらこ、

どんぶらこ、

おおきな ももが

ながれて きたのです。

「おやまあ、なんて

みごとな ももだこと。

おじいさんと

たべましょう。」

と、おいしゅう、

ももを かかえて

いえに かえりました。

さうぞく ももを
きこうと すると、
ばかんーと
ももが われました。
なんと、ももの なかから
げんきな あかちゃんが
とびだして きたのです。
「まあ かわいらしい。
うちの こに して
そだてましょう。」
「ももから うまれながら、
なまえは
ももたろうじゃ。」





ももたろうは、すくすくと
おおきく なりました。
そのころ、むらでは、おにが
きて、あばれまわり、むらの
ものを、とって、いくので、
みんなが、こまづて、いました。
「おじいさん、おばあさん、
おにたいしに、おにがしまへ
いって、きますす！」
ももたろうは、おばあさんに
おいしい、きびだんごを
つくって、もろつと、おげんきに
でかけて、いきました。

はじめに、いぬに
あいました。

「ももたろうさん。

どこへ いくのですか。」

「おにたいじに
おにがしまへ
いくんだ。」

「わんわん、
きびだんごを

一つ ください。

おともします。」

つぎに、さるに

あいました。

「きやつ、きやつ、
きびだんごを

一つ ください。

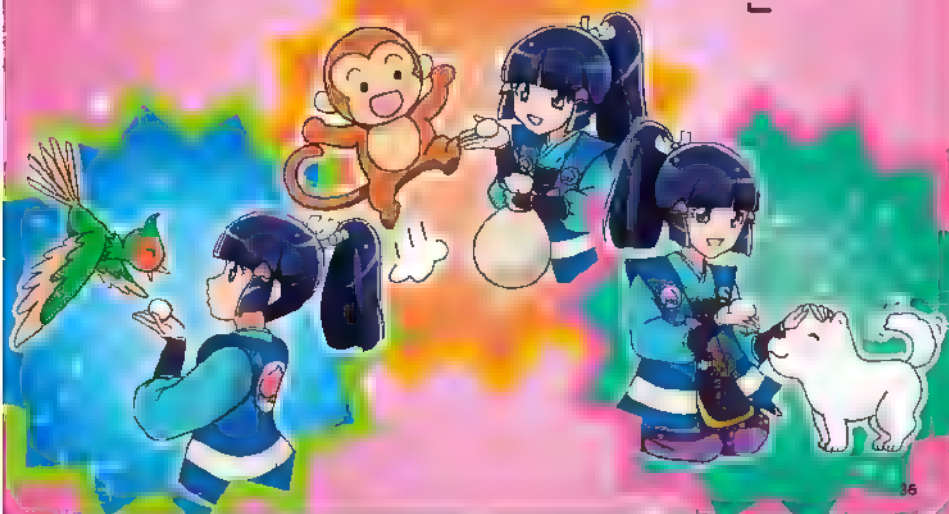
おともします。」

つぎは、きじです。

「けくん、けくん、
きびだんごを

一つ ください。

おともします。」



いじろ、もまたいじろ、いじろ
おとぎは、ふねにのって
おにがしまへ、おかいました。
「はあ、いよいよ、おにがしまたー」





「わるい おにたちめ。
かくこしろー」
ももたろうたちは、
きびたんごを
たべて いるので
げんきいっぱいです。
いぬは かみつき、
さるは ひつかき、
きじは つつきます。
そして ももたろうは、
おにの おやぶんを
なげとばしました。

「どうか ゆるして ください。
として きた ものは、
すへて おかえします。」
おにたちは こうさんです。
ももたろうは、たくさんの
たからものを もって、
むらへ かえって いきました。

(おわり)



[illegible]

映画 スマイルプリキュア!

映画 スマイルプリキュア! 絵本の中はみんなラグバグ!

えいがの
なかでも
おなじ 五つ
ものがたりの
しゅじんこうに
なつた
プリキュアたちが
かつやくするよ。
たのしみね!

おにがれの
ゴニデラに
なれるなんて
ウルトラハッピー!

えいがかんで あおうね!

おやことも
だんごも
だいじょうぶ!

プリキュアの えいがで えほんの せかいへ いこう!



ISBN 978-4-06-350363-0 C9474
雑誌 61201-84

おとまたちスーパーワイド百科辞 スマイルプリキュア! 名作えほん

2012年9月5日 第1刷発行

■発行所 株式会社 講談社
東京都文京区音羽2-12-21 (〒112-8001)

■印刷・製本 国書印刷株式会社
■装幀 株式会社 アニメーション
■構成 坂谷美可 ■デザイン バットデザインズ

©ABO・講談アニメーション Printed in Japan
©2012 講談スマイルプリキュア監修委員会

著者 乱丁字は、購入履歴を明記のうえ、小社編集部(電話03-63-667-9603)までにお送りください。送付小社編集部にお送りください。なお、この本に付いてのお問い合わせは、プレスリリース用紙(おとまたち)までにお送りいたします。本書のコピー、スキャン、デジタル化等の複製権は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書が著作権等の第三者に使用してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

※予読みの都合(紙の面で多々
修正を要する等)のため、後
刷りの方は巻頭の図り違いにご
注意ください。

本作品は、2012年9月、小社よりおともだちスーパーワイド百科[®]として刊行されたものを電子書籍化したものです。

◎本電子書籍内の外部リンクに関して

ご利用の端末によっては、リンク機能が制限され正しく動作しない場合があります。また、リンク先のwebサイト、メールアドレス、電話番号は、事前のご連絡なく削除あるいは変更されることもございます。ご了承ください。

スマイルプリキュア！
名作えほん

2016年3月1日発行

絵 東映アニメーション
構成 萩谷美可
デザイン パッドビーンズ
©ABC・東映アニメーション
©2012 映画スマイルプリキュア！製作委員会

発行者 清水保雅
発行者 株式会社 講談社
東京都文京区音羽 2-12-21
〒112-8001

◎本書の書籍は、購入者個人の閲覧の目的のためにのみ、ファイルの閲覧が
承諾されています。私的利用の範囲をこえる行為は著作権法上、禁じられて
います。